

## べっぷの未来まちづくり支援補助金活動報告書

<b>1 団体名</b> 特定非営利活動法人べっぷ未来塾
<b>2 活動内容</b> 別府情報なんでもyoiya【共創型情報拠点】双方向インフォメーションセンター化事業 ・別府の地域資源（ヒト・コト・モノ）を網羅的に収集・発信し、住民と観光客双方の「知りたい」に応える体制を整備することで、コミュニティカフェの利用促進を図る。 ・ソーシャルビジネスとしての仕組みを確立し、持続可能な管理・運営体制を可視化することで、将来的な事業継承を見据えた組織体制の強化を図る。
<b>3 活動期間</b> 令和 7年 6月 11日から 令和 8年 3月 31日まで
<b>4 活動実施内容</b> ① 地域資源（ヒト・モノ・コト）の情報収集。住民と観光の双方に有効な情報収集、発信のため、観光・経済・福祉・環境等くらし全般の情報収集と提供をし、対面で「情報の回遊」を実施した。 ・ヒアリング 24 件（自治会、地域商店街、民間、大学関係者）：店舗周辺地域の状況把握など ・相談等対応 32 件：企画立案、組織運営・人材・広報支援など ・スペースレンタル 24 件 計 80 件 ② 研修の実施：コミュニケーションスキルアップ研修（全 3 回 9/26・10/17・12/25 参加者 10 名）／まち歩き研修（12/13 参加者 10 名） ③ 多言語翻訳アプリを利用し、多言語で食を通じた異文化に対する講習会を開催（全 6 回 11/24・12/23・1/21・1/25・2/20・3/27 参加者 53 名） ④ 多言語翻訳アプリの導入と活用（10/7 納品、講座内容にも組み込み） ⑤ 多様な組織との情報共有・連携体制の構築 ・チラシ 56 件を預かり、観光情報を中心に幅広く発信 ・一方で、地域住民向けの生活情報については収集が不十分であった。 ・来店を通じた大学関係者や個人との連携は一定程度構築できた。
<b>5 活動の成果</b> ① 情報収集活動の推進により店舗の認知が向上し、問い合わせや利用の増加につながった。自治会関係者からの声掛けや、パンフレットを見て来店する相談者も見られた。 ② 研修受講により、会員の対人対応力が向上した。参加者からは「対面対応への不安が軽減した」との声があり、各自が課題を認識し改善に取り組むなど、有意義な成果が得られた。 ③ 講習会・研修会では、企画者との新たな出会いが生まれ、当初計画より規模は縮小したものの、内容の充実度および参加者満足度は高かった。今後の展開に向けた協力関係の構築にもつながった。 ④ 多言語翻訳アプリの導入により、外国人観光客への対応に対する心理的ハードルが軽減さ

れた。一方で、機器の存在自体の周知が十分でなかった点は今後の課題である。

⑤ 来店者への活動紹介や協力依頼を通じて、緩やかながらも多様な主体との連携関係を構築することができた。

## 6 反省点や今後の目標

### <反省点>

パンフレット作成の遅延により対外的な訪問活動が十分に行えず、多様な組織との連携構築は計画の約3割程度にとどまった。

### <今後の目標>

- ・補助金により整備したパンフレット等を活用し、地域住民や観光客が訪れやすい拠点施設として利用拡大および事業の周知強化を図る。
- ・ソーシャルビジネスとして成立する持続可能な運営体制を確立する。
- ・自治連携課、社会教育課との連携を深め、「ひとづくり・まちづくり」に資する事業の精度向上を図る。
- ・大学関係者との連携を発展させ、新たな企画展開につなげる。
- ・多文化共生（多宗教を含む）をテーマとしたイベントの実施を予定。